



地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 25
2018.6

平成30年度入学式

「正解のない課題に 対応する準備を」

 城西大学
 城西短期大学

患者向けの食事情報サービス「アイヘスAIHS」スタート

新企画 フォーカス

坂戸市・健康づくり日本一目指して 片野恵理さん
附属城西高校 陸上競技部

目次

- 02 [平成30年度入学式]
「正解のない課題に
対応する準備を」
- 03 [平成29年度学位記授与式]
—自ら考え、自ら築き、社会を変える大きな力を
[卒業報告会]
- 04 患者向け食事情報「AIHS」スタート
本学とムーン、が連携協力へ
オリジナル白衣「JOSAI×MOUSSY」完成
- 05 「グローバルチャレンジ奨学生」表彰
就活準備ガイダンス スタート!
本学とヤンゴン大学が科学技術交流
- 06 ローカルヒーロー博覧会に多くの来場者
ラグビーW杯のボランティア募集始まる
平成29年度スポーツ表彰に5団体と31人
- 07 [新シリーズ]フォーカス
坂戸市 片野恵理さん
健康づくり日本一を目指して
附属城西高校陸上競技部 「目指すは日本一」
- 08 [シリーズ]先輩訪問
いわき湯本温泉 旅館「こいと」
代表取締役社長 小井戸英典さん
- 09 [シリーズ]学生瓦版
「江戸の旅」—浮世絵でめぐる房総
めつけたさかど!、デジタルフォト展
- 10 [シリーズ]図書館だより
- 11 [エリア紹介]
鶴ヶ島市 鶴ヶ島でびしょ濡れになろう
越生町 越生まつり
—勇壮な越生ばやしと夜空を彩る花火
東武線沿線情報 尾瀬へ出かけてみませんか

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
柔らかな春の日差しが祝福する4月4日、平成30年度の入学式が挙行されました。希望を胸にこの日、城西生に仲間入りしたのは、合わせて2001人。新入生たちは、晴れやかな表情で入学式会場の総合体育館に向かっていました。



正解のない課題に 対応する準備を

— 白幡晶学長

2001人が新たに城西の門くぐる

2018
4.4

平成30年度の入学式が2018年4月4日、総合体育館で執り行われました。例年より早く開花した桜はほとんどが散りましたが、春の日差しが祝福する中、大学院、学部、短期大学、別科、健康市民大学合わせて2001人が新たに城西の門をくぐりました。

白幡晶学長は告辞で、若い臨床医が経験したエピソードを披露したうえで、「今の世の中は、これまで誰も経験したことのない変化に直面しています。大学では正解のない課題に対応するための準備をすることになります。誠実な思考によって体系的に学問を習得し、想像力を駆使して人のために使う、その過程こそが本学創立者の建学の精神とした『学問による人間形成』の意味するところだと思います」と新入生に語りかけました。

また、上原明理事長は祝辞で、最も大切にしているという言葉「着眼大局、着手小局」を紹介。「先人に学ぶ、他人に学ぶ、自分で学ぶ、の三つの要素が重要。明日の自分は、今日の自分が何を考え、何を実行したことの結果であると思っています。ぜひ皆さんも心掛けていただきたい」と新入生を激励しました。

石川清坂戸市長、山口泰明衆院議員、高橋一美父母後援会長の来賓祝辞に続いて新入生代表が宣誓しました。薬学部薬科学科の齋藤稜太さんは「私たちは城西大学の学生であることに誇りを持ち、それぞれが大きな夢や目標に向かい、新しいことに挑戦していきます」と述べ、また短期大学ビジネス総合学科の三ヶ田果林さんは「大学生活に期待と希望を抱き、仲間とともに支え合いながら、大学生活が実りあるものとなるように努力します」と誓いました。



宣誓する齋藤稜太さん



宣誓する三ヶ田果林さん



告辞を述べる白幡晶学長



祝辞を述べる上原明理事長

平成29年度学位記授与式

自ら考え、自ら築き、社会を変える大きな力を

2018
3.17

— 上原明理事長

理事長特別表彰者は次の通り。(敬称略)

【学業賞】佐々木恵太郎(経済学部)▽横田開(現代政策学部)▽大澤翔(経営学部)▽佐野達哉(理学部)▽岡田梯明(薬学部)▽桜井隼人(短期大学)【スポーツ賞】鍛冶木峻(陸上競技部)▽福居紗希(女子駅伝部)

卒業報告会

「患者さんを身近で支え、 地域に貢献できる薬剤師に」



卒業式に先立ち、父母後援会からの学費補助を受けた卒業生4人と三菱商事の財団による東日本大震災の支援奨学金を受けた卒業生4人の卒業報告会が清光会館で開かれました。報告会には卒業生8人のほか、上原明理事長や高橋一美父母後援会長らが出席しました。

上原理事長は挨拶で「周りの方に対する感謝の気持ちを忘れずにしっかりと自分の将来を歩んでいただきたい。自分の考え、そして身の回りを築かれたら、世の中に対するお礼をできるところからお返ししていただきたい」と述べました。

父母後援会の学費補助を受けた小川夏歩さん(薬学部)は、大学1年の時に医師だった父親を病気で亡くしました。小川さんは「一度は大学をやめることも考えましたが、父や応援して下さる人のためにもう一度頑張ることを心に決めました。卒業後は父のように病気で苦しむ患者さんを身近で支え、地域に貢献できる立派な薬剤師になるため大学院に進学します」と抱負を述べました=写真。

また、三菱商事の財団の奨学金を受けた道山雄一さん(薬学部)は「東日本大震災から7年を経過した今でもその爪痕は各所に残っており、今でも心が痛みます。振り返ると復興とともに歩んだ6年間だったのではないかと思います。先月の薬剤師国家試験も無事、乗り越えることができました。これまでいただいた数えきれない思いを、医療という道を通じて社会に還元できるよう精いっぱい力を尽くしたいと思います」と決意を述べました。



平成29年度の学位記授与式(並びに卒業証書授与式、修了証書授与式)が2018年3月17日、総合体育館で執り行われました。昨年度、大学を巣立った卒業生は1593人で、卒業生総数は8万4006人となりました。式典では学位記や証書が授与された=写真=ほか、学業やスポーツに顕著な業績を上げた学生たちが、理事長特別表彰を受けました。

白幡晶学長の告辞は川邊純子副学長が代読しました。告辞の中で白幡学長は「学ぶことの意義は、問題の本質を見抜く力を養うことと、人の骨格となる人格を成長させることです。皆さんは、本学で『学問』を通じて、養ってこれた人格のもとに、変化の本質を見極め、どのように対応すればよいのかといった『考える力』を社会のために役立ててください」と、はなむけの言葉を贈りました。

また、上原明理事長は「自ら考え、他の人と話し合って学ぶということをこれから一生続けてほしいと思います。将来は、自分の手で自らを築き、また社会を大きく変える力を発揮していただきたい」と語りかけました。

これに対し卒業生を代表して藤原駿佑さん(薬学部医療栄養学科)が「これからは社会に出て、様々な世界にも積極的に赴き、いろいろな人たちと出会い、交流する中で人間性や人生経験を深めていこうと考えています」と答辞。桜井海人さん(短期大学)も「これから先、高すぎる壁が待ち受けているかもしれませんが、城西短期大学を卒業した誇りを胸に日々精進していきたいと思っています」と決意を述べました。



答辞を述べる藤原駿佑さん



答辞を述べる桜井海人さん

患者向け食事情報「AIHS」スタート 2018 2.20

薬学部と医療ベンチャー、情シス会社の共同サービス

薬学部が医療関連ベンチャーの「ジャパンモード」(東京都足立区)、情報システムの「ミツイワ」(東京都渋谷区)と共同で、抗がん剤を利用して患者向けの食事情報サービス「AIHS(アイヘス)」を始めました。2月20日に行われた記者発表で、從二和彦副学長は「蓄積してきた知見の発信によって世の中に貢献できるということが、目に見える形で広がっていけば大学としても大変うれしい」と述べました。

薬学部では大阪国際がんセンターと連携して、抗がん剤と相互作用(副作用)のある食品のデータ化や相互作用のないお薦めの食事レシピのデータ化を進めてきました。今回の取り組みは、蓄積



記者発表後に手を重ねる從二副学長(右から2人目)たち

されたデータベースをAIクラウドでプラットフォーム化し、かつクラウドで一元管理することで、だれもが本学の最新の知見を活用できるサービスにするものです。

スマートフォンやタブレットから専用のアプリを利用して情報が取得できます。当初は、抗がん剤と食品の相互作用情報の提供になりますが、がん患者に提供する食事メニューの提供や利用者の生体情報に基づいた有益な情報提供へと展開していきます。学部では、学生やOBが考案した優秀なレシピも選んでクラウドの順次追加し、レシピや料理のコンテストを実施するなど学生のモチベーションを上げる取り組みも行っていく方針です。

本学とムーミン、が連携協力へ 2018 3.29

「ムーミン物語」と地域振興・教育振興で基本協定締結

本学は3月29日、飯能市の宮沢湖を中心に北欧のライフスタイルやムーミンの物語の世界観を体験できるテーマパークを手掛ける株式会社ムーミン物語(本社・東京都品川区、ロバート・ハースト代表取締役)と地域振興や教育振興の向上などを目的に連携協力に関する基本協定を締結しました。

テーマパークは「メツァ」と呼ばれ、フィンランド発祥のサウナ付きの宿泊施設やイベント広場などからなる「メツァビレッジ」(今年11月開業予定)と、ムーミン一家の住まいを再現したムーミン屋敷など物語を主題とした「ムーミンパレーパーク」(2019年春グランドオープン予定)の二つのエリアから構成されています。

本学は、地域に根差す大学として、地域の中で教育・研究を行うとともに、国際化が進む社会において力強く生き抜ける人材を育てることを目指しています。今回のムーミン物語との連携も、地域社会と国際化する社会を一つのものとして実体験できる場として、教育・研究の中に位置づけるものです。



「メツァビレッジ」のイベント広場(イメージ)



「ムーミンパレーパーク」のムーミン屋敷(イメージ) ©Moomin Characters™

オリジナル白衣「JOSAI×MOUSSY」完成

本学と株式会社バロックジャパンリミテッド(本社・東京都目黒区、村井博之社長)はこのほど、産学共同プロジェクトによってオリジナル白衣を制作しました。5月中旬から学内で販売しています。

学校法人城西大学と同社は2016年4月に「産学連携に関する包括協定」を結び、人的・知的資源の交流と活用を図り、特にファッション業界等で活躍する人材の育成に寄与することを目的に活動を行ってきました。

「従来にはないスタイリッシュで機能性にも優れた白衣が着たい」という学生の声から、今回のプロジェクトがスタートしました。同社では昨年9月から社内コンペを実施。応募19案の中から本学の学生や教員によるデザイン画での1次選考、大学内での商品サンプル展示による最終選考を経て、ハイカジュアルブランドMOUSSY(マウジー)の企画デザイナーである山岡奈津美氏のデザイン案に最終決定。その後、学生たちと打ち合わせを重ねてオリジナル白衣「JOSAI×MOUSSY」が完成しました。サイドスリットの入ったデザイン、後ろはベルト付きでギャザーを寄せてすっきりとした印象になっています=写真。



「グローバルチャレンジ奨学生」表彰 2018 4.7

父母後援会・同窓会の支援で創設された新制度

本年度から新設された「グローバルチャレンジ奨学生」の表彰式が4月7日、水田三喜男記念館ホールで開かれました=写真。父母後援会と同窓会の支援によって創設されたこの奨学金制度は、海外留学や海外研修制度、外国人留学生との交流など本学独自の国際教育を通じて世界を体験し、そこで培われたグローバルな視野で物事を考え行動できる人材の育成を目的としています。

今年度、30万円の奨学金が授与される学生は計26人。表彰式では、白幡晶学長が奨学生を激励した後、奨学生の紹介と代表者の決意表明がありました。

奨学生には、グローバルチャレンジ奨学生としての自覚と広い視野を持ち自己研鑽に努めるとともに語学力のさらなる向上を図り、城西大学海外教育プログラム(JEAP)短期語学研修や国際交流活動に積極的に参



加することが求められています。表彰式後には説明会があり、各学部や語学教育センター、国際教育センターから説明を受けました。

就活準備ガイダンス スタート! 2018 5.8~

3年生と短大1年生が対象

来年3月の就職活動に向けて、3年生と短大1年生を対象にした就活準備ガイダンス編が始まりました。5月8日のスタートアップガイダンスに続いて、17日はインターンシップ活用がありました。

2号棟301教室で開かれた17日、1回目のガイダンスには、多くの学生が参加しました=写真。講師の大手人材広告企業「マイナビ」の担当者は、①就職とは? ②インターンシップとは? ③今やっておくこと——の3部構成でガイダンスを進め、「2年後の春、どんな自分でありたいか自分なりのゴールを決めることが重要。そのためにもインターンシップを活用してほしい」と呼びかけました。

インターンシップでのマナー動画の上映もあり、学生たちは熱心にメモを取りながら、講師の話に聴き入っていました。



本学とヤンゴン大学が科学技術交流 2018 2中旬

ミャンマーのヤンゴン大学の若手自然科学系教員が2月中旬、本学を訪れて交流を深めました。ミャンマー出身の理学部化学科のティティレイ客員教授が中心となって申請した「さくらサイエンスプラン」(略称SSP・日本・アジア青少年サイエンス交流事業)が採択され、科学技術交流が実現しました。同プランは、未来を担うアジア地域と日本の青少年の交流を通して、双方の科学技術の発展に貢献することを目的とした独立行政法人「科学技術振興機構」の事業です。

ヤンゴン大学の教員11人が、10日間の日程で滞在し、滞在前半は坂戸キャンパス内の研究施設やスポーツ施設などを見学し=写真、理系教育のカリキュラム構成や教職センターによる教員育成・指導方法について講義を受けるなどしました。

滞在后半は、地域連携活動の一環として、東京電機大学理工学部や鶴ヶ島市市民団体運営のメガソーラー施設を見学したりし、地域住民や地域内の研究・教育者とも交流を深めました。滞在最後の2日間は東京に移り、日本科学未来館や国立科学博物館、東京紀尾井町キャンパスなどを見学しました。終了式で若手教員たちは「今回の科学技術体験を通じて日本が身近に感じるようになり、日本の科学技術に対する教育・研究の取り組みを実感できた。これからのミャンマーの科学技術教育の改革に大いに参考にしたい」と述べました。



ローカルヒーロー博覧会に 多くの来場者

2018
2.24

大学としては全国初のイベント

東京紀尾井町キャンパス3号棟で2月24日、「ローカルヒーロー博覧会」が開かれました。経営学部の石井龍太准教授が呼び掛けたもので、当日は、石井准教授による城西エクステンション・プログラムでの教養公開講座「多様化するローカルヒーローの可能性」が行われたほか、ヒーローたちと触れ合う「ふれあい広場」や運営団体による「展示会場」が設けられ、約130人の来場者でにぎわいました＝写真。

キャラクターマーケティングの新規開拓や団体間の情報交換と交流などを目的とした大学としては全国初のイベントで、ローカルヒーローを運営する16団体が、関東圏をはじめ大阪や京都からも参加。化石博物館前のフォトセッションは大いに盛り上がりました。会場受付には石



井ゼミのヒーロー「リベレスパー」と「ルーガライザー」が立ち、来場者に入館証とノベルティグッズ(博覧会ロゴ入りガム)を配りました。

今回は、城西国際大学メディア学部学生の協力でTwitterやYouTubeへのライブ動画配信も行い、石井ゼミの学生との交流の場となりました。



2019年ラグビーW杯ボランティア募集ポスター

ラグビーW杯の ボランティア募集始まる

募集期間は7月18日まで

2019年のラグビーワールドカップ日本大会の大会ボランティア(チームノーサイド)の募集が始まりました。大会ボランティアは、試合が行われる全国12都市で合計約1万人を募集。大会会場などで日本の顔として活躍することが期待されています。本県でも熊谷ラグビー場が会場となっていることから、県ラグビーワールドカップ2019大会課の担当者が5月14日に本学を訪れて参加を要請。学生課も「ボランティアの経験は国際

交流や就職活動にも役立つ。ポスターの掲示などで募集に協力したい」と応えました。

ボランティアの条件は2019年3月末時点で18歳以上で、1日当たり最長8時間のボランティア活動に参加できるなど。募集期間は7月18日までで、8～12月に開催都市で実施される面接に参加する必要があります。試合会場での運営補助や観客の誘導・案内、来場者サービスなどにあたります。

アジアで初の開催となる大会は日本など20チームが参加して来年9月から11月にかけて開かれ、熊谷ラグビー場ではアルゼンチン対アメリカなど3試合が行われます。

平成29年度スポーツ表彰に 5団体と31人

2018
3.17

平成29年度のスポーツ優秀団体・優秀選手表彰式が3月17日、清光会館で開かれました。昨年度は5団体と31人が表彰を受けました＝写真。挨拶で川邊純子副学長は「皆さんはスポーツを通じて多くのことを学ばれたと思います。いろいろな意味で磨かれた人間力を社会のために役立ててください」と述べました。表彰を受けた団体と選手は次の通り。(敬称略、学年は3月現在)

【団体】女子駅伝部(日本選手権とユニバーシアード台北大会での上位入賞や全日本大学女子駅伝でのシード権獲得など)▽男子駅伝部(箱根駅伝で3年ぶり4回目のシード権獲得など)▽陸上競技部(1600mリレーでの日本インカレ4位入賞や世界陸上代表など)▽女子ソフトボール部(東日本大学選手権優勝など)▽男子ソフトボール部(全日本大学選手権3位入賞など)

【個人】足達凌太郎(現代政策学部4年)、秋山裕磨(経営学部3年)＝以上、硬式野球部▽福居紗希(現代政策学部4年)、上田未奈(経済学部3年)、三ツ木桃香(現代政策学部2年)＝以上、女子駅伝部▽菅真大(経営学部4年)、山本竜也(同)、大石巧(同3年)、中島公平(同)、服部潤哉(同)、金子元気(同)、荻久保寛也(同2年)＝以



上、男子駅伝部▽高橋竜平(経営学部4年)、鍛冶木峻(同)、渡部佳朗(同3年)、水久保漱至(同1年)＝以上、陸上競技部▽寺岡優花(経営学部4年)、宮原莉央(同)、並木あかね(同)、＝以上、女子ソフトボール部▽坂入基(経営学部4年)、小泉渉(同)、篠崎悠(同)、高橋良太郎(同)、宮原廉(現代政策学部4年)、飯田敏弘(同)、鶴本真也(同)、＝以上、男子ソフトボール部▽佐藤和哉(現代政策学部4年)、田中大輔(同)、和栗和紀(同)＝以上、サッカー部▽渡邊篤司(経済学部4年)、関口和明(同)＝以上、バスケットボール部

フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンに登場いただくとともに附属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、「日本一健康なまちづくり」を進める坂戸市の健康政策担当(管理栄養士)の片野恵理さんと、全国的にも強豪の附属城西高校の陸上競技部に焦点をあてました。

健康づくり日本一を目指して

坂戸市 片野恵理さん

—「日本一健康なまちづくり」を始められたきっかけは?

「2002年の健康増進法の制定を受けて翌年、市の健康増進計画を作成するために市民会議を立ち上げたのが、最初です。全員公募の市民20数人のメンバーで、健康なまちの姿について、議論を重ねながら、計画づくりを進めました」

—2006年からは「葉酸プロジェクト」を展開されています。

「市民アンケートで、将来かかりたくない病気に認知症や脳血管



坂戸市・健康政策担当(管理栄養士)の片野恵理さん

疾患などが上位だったことから、当時、女子栄養大学で葉酸と認知症、動脈硬化との関連について研究されていた先生の成果を市の健康政策に取り入れさせていただきました。講習会などで、ビタミンB群の一種である「葉酸」を多く含む野菜などの摂取を呼び掛けています。

—葉酸プロジェクトの他に力を入れている取り組みは?

「食の環境整備を目的に、栄養に配慮したメニューや食品を提供する店舗を「坂戸市食を通じた健康づくり応援店」として認定しており、現在43店舗あります。メニューの認定については、城西大学の医療栄養学科の先生にもお世話になっています。また、30数名からなる市民ボランティア「元気にし隊」との協働による健康づくり活動も行っています。こうした取り組みが評価され、2016年には埼玉県健康長寿市町村表彰で優秀賞を受賞しました」

—市内3大学との連携にも力をいれておられます。

「講演会などで市民の方々が専門家の話を聴く機会をいただいたり、事業成果を研究によって細かく分析していただいたり、行政だけでは難しい部分をサポートしていただき感謝しています。今後、研究の分野で学生さんともコラボレーションして何かできればありがたいと思っています」

「目指すは日本一」有力選手が目白押し

附属城西高校陸上競技部

「カタを破れズバ抜けろ」——。附属城西高校(東京都豊島区)の陸上競技部の公式映像のタイトルです。400mで日本歴代2位の記録を持つシドニー五輪代表の山村貴彦教諭らが指導する陸上競技部。タイトルは、前例や常識、既成概念に縛られず、制約のある環境の中でも創意工夫で陸上競技に取り組む姿勢を表していま

す。約120人の部員が「日本一」を目指して、汗を流しています＝写真①。

2015年の世界ユースの100、200mチャンピオンでロンドン世界陸上にも出場したサニブラウン・アブデル・ハキーム選手は昨年、卒業しましたが(米フロリダ大学進学)、同じく短距離で東京五輪に向けた日本陸連のダイヤモンドアスリートに認定されている塚本ジャスティン惇平選手(3年)ら有力選手が目白押しです。

充実した指導陣＝写真②＝は他校もうらやむほど。山村教諭のほか、国体3000mで入賞経験のある砂子愛教諭、2度の五輪出場を誇る110mハードルの第一人者だった内藤真人教諭の顧問陣に加え、いずれも長距離とマラソンで輝かしい実績を残してきた実井謙二郎氏と渋井陽子さんがコーチを務めています。

都心に近い学校のため校庭は狭く、短距離とハードル陣の学校での週3回の練習はテニスコート1面分しかなく、長距離陣はロード中心。跳躍と投てき陣は日本大学のグラウンドを借りて練習しています。塚本選手は「7月の世界ジュニアでハキーム先輩と走りた



い。インターハイでは100、200、リレーの3冠を取りたい」と抱負。山村教諭は「各人なりの練習方法があっていい。環境で陸上競技をするのではなく、工夫と考え方で競技をするのが城西陸上部。厳しく楽しい雰囲気の中で高みを目指したい」と話しています。

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回はいわき湯本温泉の旅館「こいと」代表取締役社長で福島県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長 小井戸英典さん(62)を旅館に訪ねました。



「つまずいたっていいじゃないか、 意気込まず、 なんでも面白く工夫して

いわき湯本温泉 旅館「こいと」代表取締役社長、
福島県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長 **小井戸英典さん**
(1979年 経済学部卒)

—どんな学生生活でしたか。

「下宿したのが川角駅近く、大学から歩いて5分の農家でした。3年生の先輩が4人いて1年生は私1人。個性的な先輩たちに、中学から覚えた麻雀を教えて毎日、卓を囲んでいました。皆さんからいろいろ提供していただきました(笑)。クラスだけでなく、なるべく多くの人と接して友達づくりをした学生生活だったでしょうか。昨年四国を訪問した際に、高知出身の一人の先輩と40年ぶりに会って旧交を温めました。いいものですね。行こう行こうと思っていて、ようやくかきました」

—これまでで大きな転機はありましたか。

「いくつかありますが、一つは弟が継ぐはずだった旅館を継いだことです。大学を卒業してそのまま川越の丸広百貨店に勤めました。1年ほどたったときに、「後継ぎがないと借金ができないから戻ってこい」と父に言われ、家を出ていた弟に代わって継ぐことになりました。1年間、磐梯熱海温泉の栄楽館で修業して戻ってから手掛けたのが、従業員の労働環境の改善でした。当時、一般的だったたすきがけの勤務を廃止し、報酬も歩合制から給料制に変更すると、若いスタッフが増えました。高齢者向けから最近若い女性や赤ちゃん連れのファミリー層向けに紙おむつやミルクを用意したり……。同時に、一泊歓楽型の花街だった街を、長期滞在型・健康増進型の温泉保養地に変えるため、地域と一体となって様々な取り組みを手掛けました。ガイド付きの路地裏散策体験や千円札でお通しとワンドリンクといった『(野口)英世ちゃん晩酌セット』で街の飲食店を回遊させるなど、旅館と地域の共存共栄を試みました。ようやく軌道に乗ったところで、ドーンと(震災と原発事故が)来ました」

—2011年の震災発生時は、地元の旅館協同組合の理事長。15年からは県の組合理事長も務められています。

「あれから7年。福島の旅館、ホテルを利用するお客様は震災前の6~7割ですね。風評被害も続いています。Googleで「FUKUSHIMA」と検索してみてください。いまだに原発事故の写真

が上位を占めています。そうした中で、昨年温泉街を挙げて取り組んでいるのが、インバウンド(訪日外国人)の力を使って地域を活性化しようという試みです。伝統芸能や祭り、フラ(ダンス)などの体験、和服での街歩き、和菓子屋巡り、居酒屋散策などなど、着地型の体験プログラムを豊富に提案しています。補助金や協賛金に頼らず、住民自身がプレーヤーとなって収入を得て地域を豊かにする仕組み作りに取り組んでいます。昨年末と今年2月には、台湾とタイで誘客プロモーションを展開してきました。福島県の各地域でこうした取り組みを行い、それをネットワークでつなぎ、世界に向けて情報発信していきます」

—好きな言葉はありますか。

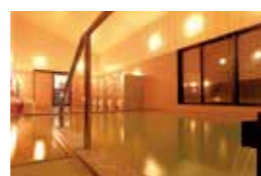
「相田みつをさんの『つまずいたっていいじゃないか にんげんだもの』です。子供のころから道でよくつまずいていました(笑)。その後も酒で、女で、博打でつまずき……。そんな自分を救ってくれました」

—後輩へのメッセージをお願いします。

「学生のうちに何でも興味を持って挑戦し、どんどん失敗しておいたほうが良い。失敗に対する免疫が出来ます。でも、頑張り過ぎない。一生懸命、頑張り続け、張り詰めていた糸が切れて亡くなった仲間が数人います。意気込まず、適度に力を抜いて、全力の7割ぐらいで取り組む。なんでも面白く工夫してやる。脳が若いうちに知識をたくさん吸収しておかないと、後悔します。英会話は絶対に習得しておくべきです(度胸とジェスチャーでも通じます)。友達はたくさんつくってほしいですね」

■いわき湯本温泉 旅館「こいと」

B&Bスタイル(Bed&Breakfast:一泊朝食付き)が基本の宿泊施設。夕食は館内のバルのほか、街の飲食店も紹介。1階は洋風だが、客室は全和室。いわき湯本温泉は、道後温泉、有馬温泉と並ぶ「日本三古泉」。「こいと」は、天然硫黄泉本来の効能を体感できる温泉施設のある旅館として人気。
〒972-8321 福島県いわき市常磐湯本町笠井1番地。TEL:0246-42-2151。



自慢の「女性浴室」

学生瓦版

広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回は女子サークル「Daisy」と卒業アルバム編集委員会を紹介します。

1年生から4年生まで仲良く活動

「Daisy」代表 笹崎加菜さん(経済学部3年)

「Daisy」は経済学部女子有志が集まって発足したサークルだ。事務局員26人を含む61人が所属、学部の先生と協力しながら活動している。

経済学部は圧倒的に女子学生が少ないため、女子学生同士の交流や支援を目的とした活動を不定期で行っている。新入生歓迎会や親睦会、オープンキャンパスの手伝いのほか、女子学生の意見を取り入れた企画も手掛けている。講師の先生を呼んでの就職活動の話も聞いたほか、メイクアップ講習会も開催したという。

代表の笹崎加菜さん(3年)は「1年生から4年生まで仲良く活動しています」と話し、企画ものも引き続き開催していきたいという。Daisyの今後の活動に期待したい。(取材:財務局一同)



前列右端が代表の笹崎加菜さん

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています jukoho1@gmail.com

他団体の人たちとのコミュニケーションが楽しい

卒業アルバム編集委員会 代表 佐藤将太さん(経営学部4年)

卒業アルバム編集委員会は、60人が3局に分かれて活動している。定例会は、週1回。イベント時の写真撮影やアルバム作り、卒業式当日のアルバム販売が大きな仕事だ。代表の佐藤将太さん(経営学部4年)は「最初は写真の技術もなくいつも悩んでいたが、先輩に聞くことで写真の技術が上がり、楽しくなってきた」と振り返り、「何より、他の団体の人たちとコミュニケーションが取れることが楽しい」と語る。

また、委員会では仲間同士のコミュニケーションを図り、団結力を高めるために年2回の合宿やバーベキュー、高麗祭での露店出店なども行っている。佐藤代表は「さらに人数を増やすとともに、父母後援会も通して認知度を高めて、アルバムの売上数を増やしていきたい」と抱負を語っている。(取材:編集局一同)



最後列左から7人目が代表の佐藤将太さん

2018.5.15~6.9

「江戸の旅」—浮世絵でめぐる房総

水田美術館で5月15日から6月9日まで、「江戸の旅 浮世絵でめぐる房総」が開かれました。

房総半島は、太平洋と東京湾に接し、風光明媚な景勝地や神社仏閣、名所旧跡に恵まれ、古来より多くの人を魅了してきました。交通網の整備によって、江戸時代後期に旅行ブームが起こり、遠方まで足を運べない人にとって江戸から近い房総は恰好の観光地になりました。名所記や図会といったガイドブックの役割を担っていた版本のほか、房総を旅した歌川広重の作品に見られるように、房総に名所を題材にした浮世絵も多く刊行されました。

展示会では、当時に一大観光地になった銚子をはじめ、市川鴻之台や保田海岸などの景勝地、成田山新勝寺や真間山弘法寺といった名所旧跡など、さまざまな房総を描いた浮世絵版画25点を展示。いずれも城西国際大学水田美術館の収蔵作品で、鑑賞に訪れた人たちの目を楽しませました。



歌川広重「富士三十六景 房州保田ノ海岸」(安政5/1858年)

2018.7.7まで

「めつけたさかど!」デジタルフォト展 坂戸市写真コンテストの入賞作品を公開中

水田美術館では7月7日まで、坂戸市の写真コンテスト「めつけたさかど! デジタルフォトコンテスト」の入賞作品展を開催しています=写真。

同市では、観光資源のさらなる魅力づくりと新たな観光資源の創造、発掘を目的に市民や来訪者が坂戸市で「めつけた(見つけた)、四季折々の自然や行事、まちの風景などを撮影した写真を対象にしたコンテストを2015年から開催しています。

募集テーマは「観光編」「坂戸よさこい編」があり、「観光編」ではさらに「自然・風景部門」と「いきいき坂戸部門」があります。今回の展示会は、地域の魅力を伝える一助になればと企画。2017年開催の同コンテストの入賞作品計38点をパネルにして展示しています。美術館では「市民にとっては坂戸の魅力を見直す、坂戸を訪れる人にとっては坂戸を知るきっかけになれば」と話しています。





学生アドバイザー委嘱式を行いました

4月20日に学生アドバイザー委嘱式を行い、関俊暢館長から一人ずつへ委嘱状が授与されました=写真。今年度のメンバーは大学院生2人を含めた過去最高の13人となり、新メンバー7人が加わったことでより幅広い相談に応じられるようになりました。

関館長からは「 Dealの『経験の円錐』を例に、学生が学生の支援を行うという経験を通じて自分自身の成長にもつなげてほしい。また、今年度全学部生が在籍していることを生かして、より多様な活動を期待したい」と激励の言葉をいただきました。



教員おすすめ図書2018年度版ができました

図書館では、教員が学生に読んでほしい本を集め、1階の「教員おすすめ図書」コーナーで紹介しています。3年目となる今年も、これまでに紹介した図書に新しく推薦された図書を追加した「教員おすすめ図書2018」=写真=を作成しました。

各教員の専門分野にこだわらず、幅広い分野の図書が紹介されていますので、気になるものがありましたら、ぜひ一度手に取ってみてください。かけがえない一冊との出会いがあるかもしれません。



平成29年度地域相互協力図書館 合同研修会を開催しました

城西大学水田記念図書館は6館の近隣公共図書館(坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、日高市、飯能市)と提携し、相互協力事業を実施しています。その取り組みの一つとして、毎年合同主催公開講座や合同研修会などを行い、図書館員のスキルアップや各図書館のサービス向上を目指しています。

3月22日(木)、当館6階グループ学習室にて「館内展示のアイデア・ポップ作成のノウハウ」をテーマに合同研修会を開催し、9人が参加しました=写真①。各館の取り組み事例や実際の展示物(ポスター、チラシ、装飾小物等)を持ち寄り、展示方法を紹介し合うなど、活発な意見交換を行いました=写真②。



エリア紹介

鶴ヶ島市

鶴ヶ島でびしょ濡れになろう

少し濡れるのは嫌ですが、びしょ濡れになると、もういやって気になりませんか? 今年の夏は、思い切りびしょ濡れになりましょう。8月26日(日)、鶴ヶ島市役所に「鶴ヶ島水かけまつり」を初開催します。

鶴ヶ島市は、東京五輪のミャンマーホストタウンに登録されていますが、ミャンマーには「ダジャ

ン」と呼ばれる国民的な水かけ行事があります。また、鶴ヶ島で水といえば降雨祈願の伝統行事「脚折雨乞」。4年に1度開催しており、今回は東京五輪の年の開催となります。

そこで、東京五輪と脚折雨乞の重なるビッグイヤー2020年に向け、ミャンマーと鶴ヶ島の伝統を融合させた新イベントが、今回の「鶴ヶ島水かけまつり」です。内容は、水鉄砲を使ったウォーターファイトやダジャン風びしょ濡れタイム、ウォーターバルーンバトル、龍神流しそうめん、水を使ったダンスショーなど。ミャンマー料理などが楽しめる屋台の出店も予定しています。着替えを持って、ぜひ遊びに来てください。



「脚折雨乞」の様子

東武線沿線情報

尾瀬へ出かけてみませんか

「夏が来れば思い出す……」と歌われ、高層湿原に「ワタスゲ」や「ニコウキスゲ」など様々な花が咲き乱れる尾瀬=写真。東武東上線の往復乗車券(各駅~川越間)と関越交通高速バス「尾瀬号」の往復乗車券(川越駅西口~尾瀬戸倉・大清水間)を利用してこの夏、尾瀬へ出かけてみませんか。

指定の山小屋などで使用できるお買物券500円分がセットになったお得なプランです。旅行代金は大人お一人様で6900円~7700円(出発駅・出発日により異なります)。ご予約・お問い合わせは、東武トップツアーズ各支店または東武トップツアーズのホームページ(<http://tobutoptours.jp/>)へ。

また、ホームページでは「尾瀬のインフォメーション」として、どんな靴がおすすめ? ▽歩くときに服装は? ▽雨天対策は? ▽尾瀬で食事はできるの? ▽トイレはあるの ▽便利なグッズは? —の初心者・初級者向けのワンポイントアドバイスを紹介しています。



越生町

越生まつり

—勇壮な越生ばやしと夜空を彩る花火

越生町の夏の風物詩である越生まつりが、今年は7月21日(土)と22日(日)に開催されます。まつりの主役は、絢爛豪華な6台の山車。笛、太鼓、鉦のリズムに合わせ、天狐、ひよっこなどの面を付けた踊り手が軽やかに舞います。日が沈むと提灯に明かりが灯り、幻想的な山車に様変わりします。

最大の見どころは「曳っかせ」。曳き回される山車同士が出会うとお囃子の競演が始まります。祭りのクライマックス「6台の山車揃い」は必見=写真。勇壮なお囃子と夜空を彩る花火で最高潮に盛り上がりを見せます。

今年は「越生まつり」と名称を改めてから30回目となる節目の年。埼玉県警による音楽隊のパレードも行われます。

- ▽7月21日: 17時~21時……………山車曳き回し
 - ▽7月22日: 13時~17時…音楽隊のパレードや神輿渡御など
 - 17時~21時……………山車曳き回し
 - 19時10分~19時50分……………6台の山車揃い
- 打ち上げ花火



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
Tel.049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2018年6月発行